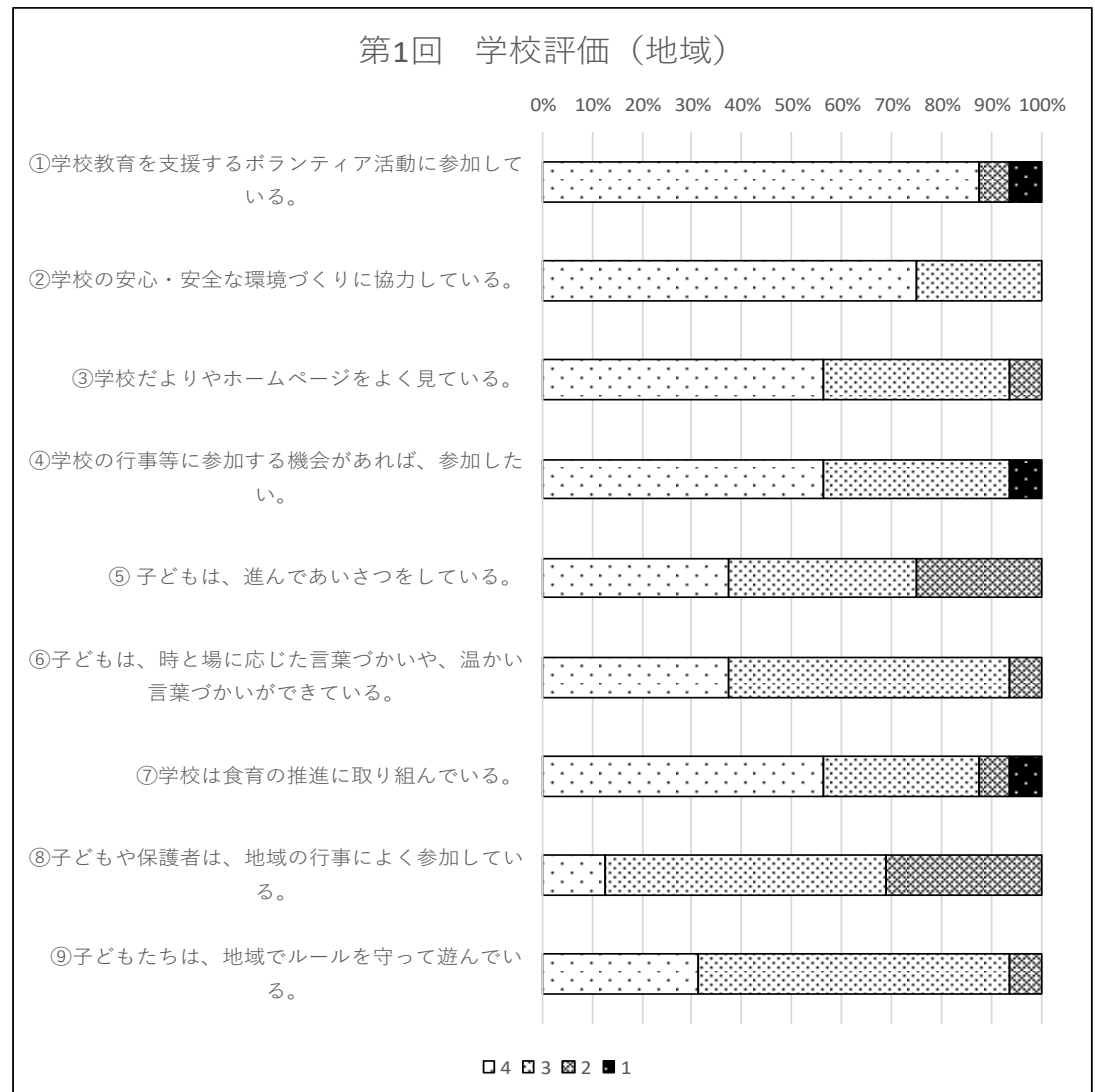


令和4年度 第1回 学校評価アンケート（地域）

	4点満点	R3第2回比較	肯定率
①学校教育を支援するボランティア活動に参加している。	3.7	+0.3	88%
②学校の安心・安全な環境づくりに協力している。	3.8	+0.4	100%
③学校だよりやホームページをよく見ている。	3.5	+0.2	94%
④学校の行事等に参加する機会があれば、参加したい。	3.4	-0.1	94%
⑤子どもは、進んであいさつをしている。	3.1	+0.1	75%
⑥子どもは、時と場に応じた言葉づかひや、温かい言葉づかひができてい	3.3	+0.3	94%
る。			
⑦学校は食育の推進に取り組んでいる。	3.4	+0.3	88%
⑧子どもや保護者は、地域の行事によく参加している。	2.8	+0.2	69%
⑨子どもたちは、地域でルールを守って遊んでいる。	3.3	-0.1	94%







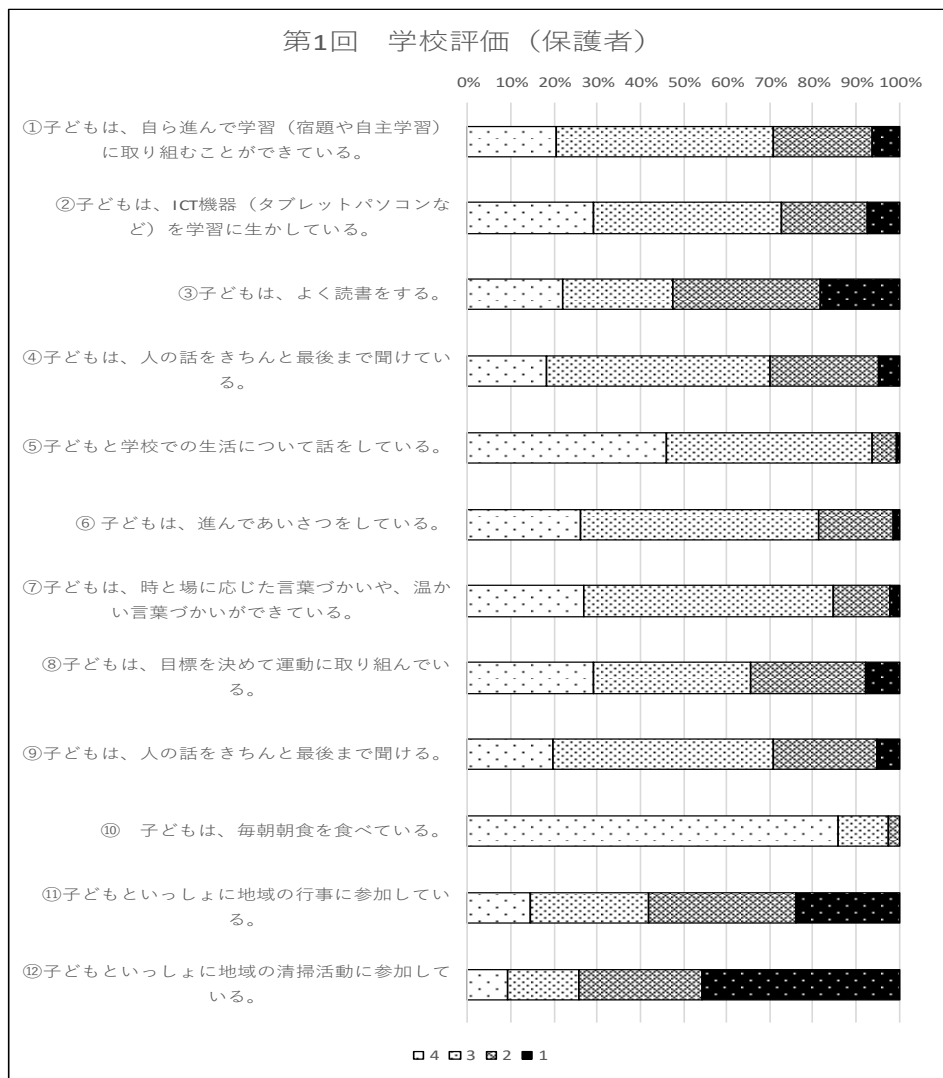
○「学校だよりやホームページをよく見ている」について、94%と肯定率が高いことからホームページやが学校だよりなどによる情報発信が地域と学校をつなぐ有効なツールとなっている。さくら連絡網で地域行事の案内を配信するなど保護者と地域をつなぐ取組も推進したい。

○児童、保護者、教職員ともに地域行事への参加など地域とのつながりについてそれぞれの立場から肯定的な結果となっていることから、地域の担い手づくりという視点を共有し、子どもたちや保護者の地域行事への参加につなげたい。

○地域における子どもたちの挨拶については引き続き学校や家庭での取組が必要である。

○1学期は日々の見守り活動に加えて、水泳指導の見守りや教室での学習支援、農園管理など、多くの地域の方々に学校支援ボランティアとして参加していただいた。今後は子どもたちが考えたことや学びを生かせる活動を通して、子どもたちと地域の方々の協働活動につなげていきたい。

		4点満点	R3第2回比較	肯定率	
	学び	①子どもは、自ら進んで学習（宿題や自主学習）に取り組むことができている。	2.8	± 0	71%
		②子どもは、ICT機器（タブレットパソコンなど）を学習に生かしている。	2.9	+0.4	73%
		③子どもは、よく読書をする。	2.5	+0.1	48%
		④子どもは、人の話をきちんと最後まで聞いている。	2.8	± 0	70%
		⑤子どもと学校での生活について話をしている。	3.4	+0.1	94%
	心と体	⑥子どもは、進んであいさつをしている。	3.1	+0.1	81%
		⑦子どもは、時と場に応じた言葉づかいや、温かい言葉づかいができています。	3.1	± 0	85%
		⑧子どもは、目標を決めて運動に取り組んでいる。	2.9	+0.3	65%
		⑨子どもは、人の話をきちんと最後まで聞ける。	2.9	± 0	71%
		⑩子どもは、毎朝朝食を食べている。	3.8	± 0	97%
	絆	⑪子どもといっしょに地域の行事に参加している。	2.3	+0.2	42%
	環境	⑫子どもといっしょに地域の清掃活動に参加している。	1.9	+0.1	26%



○コロナ禍において授業参観など実際に子どもの学ぶ姿を見る機会が制限される中、⑤の結果から多くの家庭で子どもたちの学校での生活の様子を保護者と子どもたちが共有できていることは評価できる。学校、学年だより、ホームページ等による子どもたちの学ぶ姿の発信を引き続き行っていきたい。

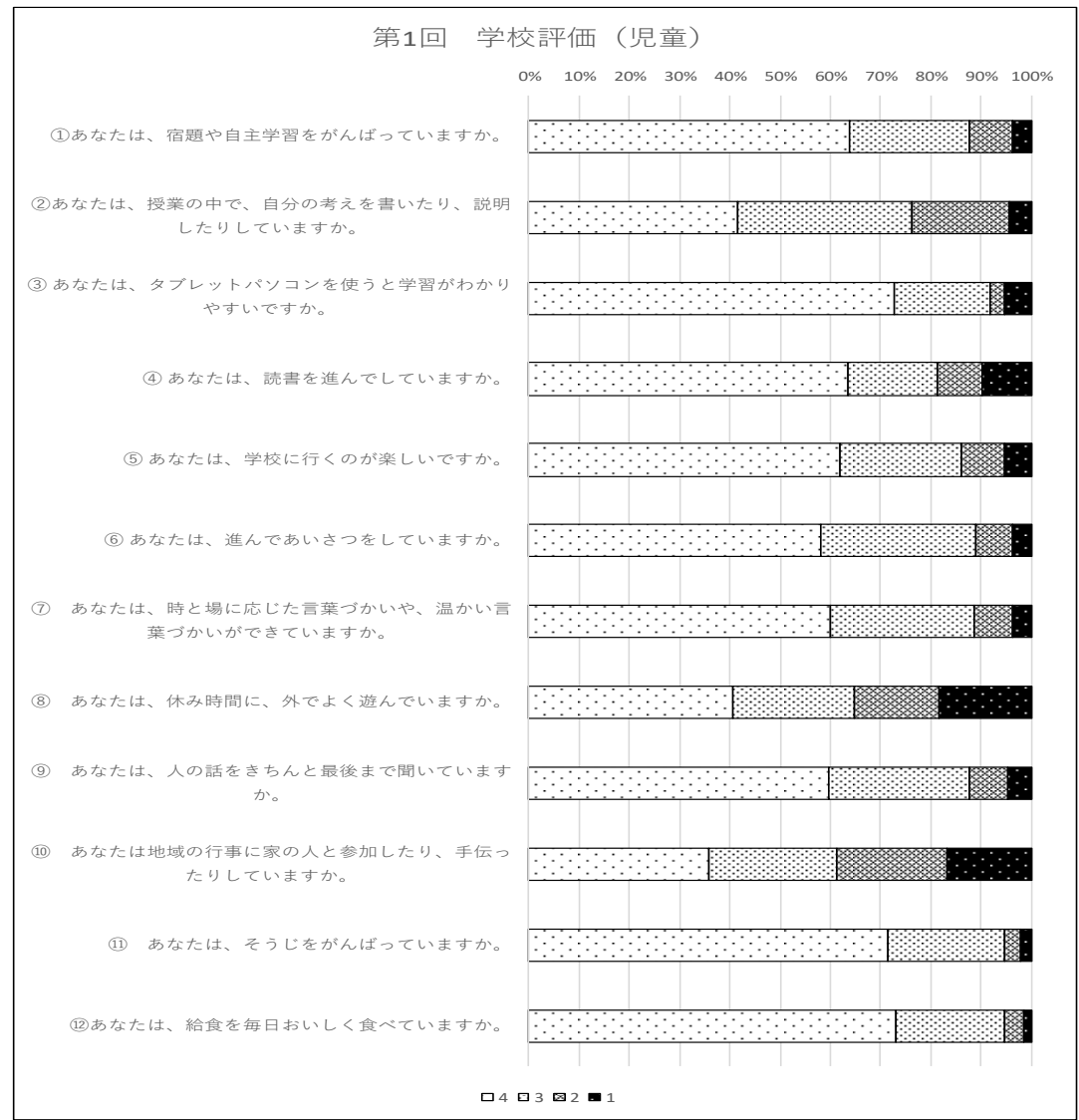
○朝食を食べる児童、給食をおいしく食べられている児童がともに95%以上と高いことから、食育を学校、家庭で連携して推進できている。

○「子どもは、ICT機器（タブレットパソコンなど）を学習に生かしている」について、昨年度GIGAスクール構想に基づく一人一端末整備が進み、本校でもICTを活用した授業づくりが進んでいる。前回と比べて+0.4ポイントとICTの活用が子どもたちの学びを変えてきていることが保護者の実感として向上してきている。タブレット端末の持ち帰りなど、家庭でのICT機器を活用した子どもたちの学びも増えてきていることから、効果的な活用を学校と家庭で連携しながら探求することが必要と考える。

○読書、体力向上については、新型コロナ対策や熱中症対策などにより、学校での生活様式が制限れることから評価対象者によって結果に差が生じている。本に慣れ親しんだり、読書量を増やしたりするための手立てや外遊びの励行などこれまでの取組を状況を考慮しながら、継続して指導・支援し向上につなげたい。

○「子どもといっしょに地域の行事に参加している」「子どもといっしょに地域の清掃活動に参加している」という項目についてはともにポイントが増加しているが、それぞれ50%を下回る肯定率である。子どもたちと保護者が一緒に地域行事へ参加することが、持続可能な地域づくりにつながっていくことを学校だよりなどで伝え、参画意識の向上につなげたい。

		4点満点	R3第2回比較	肯定率
 学び	①あなたは、宿題や自主学習をがんばっていますか。	3.5	± 0	88%
	②あなたは、授業の中で、自分の考えを書いたり、説明したりしていますか。	3.1	± 0	76%
	③あなたは、タブレットパソコンを使うと学習がわかりやすいですか。	3.6	-0.1	92%
	④あなたは、読書を進んでいますか。	3.4	+0.2	81%
	⑤あなたは、学校に行くのが楽しいですか。	3.4	-0.1	86%
 心と体	⑥あなたは、進んであいさつをしていますか。	3.4	-0.1	89%
	⑦あなたは、時と場に応じた言葉づかいや、温かい言葉づかいができていますか。	3.5	± 0	89%
	⑧あなたは、休み時間に、外でよく遊んでいますか。	2.9	-0.2	65%
	⑨あなたは、人の話をきちんと最後まで聞いていますか。	3.4	± 0	88%
	⑩あなたは地域の行事に家の人と参加したり、手伝ったりしていますか。	2.8	± 0	61%
 絆	⑪あなたは、そうじをがんばっていますか。	3.6	-0.1	95%
 環境	⑫あなたは、給食を毎日おいしく食べていますか。	3.7	± 0	95%



○タブレット端末を活用した学習について、わかりやすいという肯定的な回答が今回も非常に高かった。端末の変更があった学年ではハードやアプリケーションソフトの使い方に慣れるまで時間がかかるが、昨年度から端末の変更ない学年については文具の一つといった感覚に近づいてきていると考える。調べ学習や学習のまとめ等、さまざまな活用場面が授業の中で展開されており、子どもたち一人ひとりの実態に合わせた表現力の向上にどう活用するかが今後の課題である。

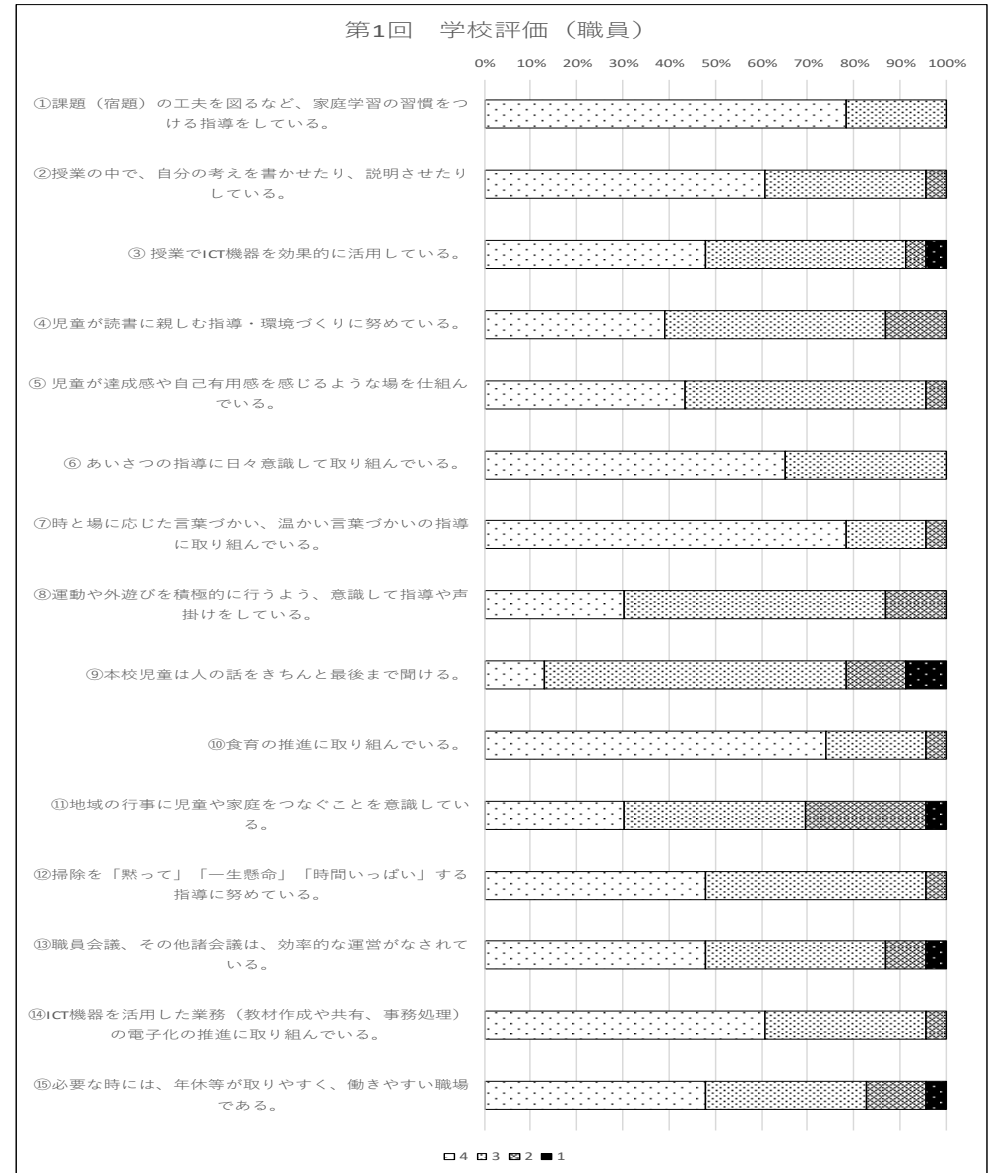
○給食をおいしく食べている、掃除をがんばっている、など学校生活に充実感を感じ、自己肯定感の高い子どもも多い。子どもたちの社会性や生活習慣を学校、家庭が連携・協働のもと育てていることが重要で、これからも継続して推進していくことが必要である。

○「あなたは、読書を進んでいますか」については、+0.2ポイント上昇しており、子どもたちの読書活動を豊かにするための工夫が成果をあげていることがうかがえる。体力向上については、依然として柔軟性と投力に課題がある。これらの課題解決に向けた取組を振り返り、改善・向上につながる取組を工夫する必要がある。

○コロナ禍の中で地域行事が少しづつ再開されてきており、子どもたちや保護者の参加も少しづつ増えてきている。持続可能な地域づくりへの参画につながるよう、保護者へ啓発するとともに、高学年児童が自分たちの学びを生かした地域貢献活動を考え、積極的に地域学校協働活動に参画できるように支援したい。

令和4年度 第1回 学校評価アンケート（職員）

		4点満点	R3第2回比較	肯定率	
	学び	①課題（宿題）の工夫を図るなど、家庭学習の習慣をつける指導をしている。	3.8	+0.2	100%
		②授業の中で、自分の考えを書かせたり、説明させたりしている。	3.6	± 0	96%
		③ 授業でICT機器を効果的に活用している。	3.3	-0.4	91%
		④児童が読書に親しむ指導・環境づくりに努めている。	3.3	+0.1	87%
		⑤ 児童が達成感や自己有用感を感じるような場を仕組んでいる。	3.4	+0.2	96%
	心と体	⑥ あいさつの指導に日々意識して取り組んでいる。	3.6	+0.1	100%
		⑦時と場に応じた言葉づかい、温かい言葉づかいの指導に取り組んでいる。	3.7	+0.1	96%
		⑧運動や外遊びを積極的に行うよう、意識して指導や声掛けをしている。	3.2	± 0	87%
		⑨本校児童は人の話をきちんと最後まで聞ける。	2.8	-0.2	78%
		⑩食育の推進に取り組んでいる。	3.7	+0.2	96%
	絆	⑪地域の行事に児童や家庭をつなぐことを意識している。	3.0	+0.3	70%
	環境	⑫掃除を「黙って」「一生懸命」「時間いっぱい」する指導に努めている。	3.4	± 0	96%
		⑬職員会議、その他諸会議は、効率的な運営がなされている。	3.3	± 0	87%
		⑭ICT機器を活用した業務（教材作成や共有、事務処理）の電子化の推進に取り組んでいる。	3.6	+0.3	96%
		⑮必要な時には、年休等が取りやすく、働きやすい職場である。	3.3	-0.3	83%



○ICT機器を活用した授業づくりに取り組む中で、指導における効果的な活用と子どもたちの学習のわかりやすさが前回より下回っている。昨年度は一人1台の端末整備が完了し、ハード面やソフト面での課題も見えてきた1年であったことから、児童の実態に合わせた個別最適化された学びと協働的な学びの実現に向けたさまざまな活用を研修や日暮の授業実践の中で継続して取り組む必要がある。

○全般的に教職員の指導に係る意識は高く、特に前回と比べて「地域の行事に児童や家庭をつなぐことを意識している。」の項目については、前回と比べて+0.3、保護者も同項目について+0.2と向上している。地域行事等の実施が増えてきていることから、引き続き子どもたちや家庭への啓発を行っていききたい。

○子どもたちの表現力（書くこと）については、学力向上プランの国語科の柱となっており、各学年児童の実態に合わせた実証的な指導を継続していく必要がある。

○会議の効率的な運営、業務のデジタル化については、昨年度からの取組により実感を伴う効率化が進んでいると考えられる。

○働きやすい職場づくりとして、休みを必要に応じて取りやすいという意識が前回-0.3ポイントとなっており、感覚的なものだけではなく前年度の年休取得日数等の数値的な検証を行い、更なる職場改善につなげたい。

4 質の高い教育を
みんなに



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任

